

# 2009年度 事業報告書

( 2009年4月1日から2010年3月31日まで )

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

## 1 事業の成果

### ○事業概要

第7回助成先(2007年度募集分)の調査研究・研修の成果発表会を実施し、助成報告集を発行した。  
 第8回助成先(2008年度募集分)については、その調査研究・研修活動の支援を行った。  
 引き続き、第9回助成の公募・選考を行い、国内の助成枠として16件、686万円、アジア枠として6件、200万円、合計22件、886万円の助成を決定した。  
 また、2006年度から委託研究として取り組んできた「地震と原発」研究、2007年度から実施している「柏崎刈羽・科学者の会」の研究活動を引き続き支援した。  
 これらの活動を「高木基金だより」とメールマガジン、ホームページなどを通じて報告するとともに、市民科学のあり方等についての広報・普及活動を行った。

### ○事業経過

2009年 5月 9日 2009年度総会開催  
 2009年 5月 9日 高木基金公開ミーティング「市民科学の今～現場からの報告と新たなチャレンジ～」を開催  
     <港勤労福祉会館にて：参加者50名>  
 2009年 6月15日 高木基金だより No. 21 発行 <約2,600通>  
 2009年 7月26日 第7回助成の成果発表会を開催 <キャンパスプラザ京都にて：参加者40名>  
 2009年 9月27日 第7回助成の成果発表会を開催 <JICA地球ひろばにて：参加者75名>  
 2009年 9月30日 助成募集(アジア枠・国内枠研修奨励) 〆切  
 2009年10月31日 「第2回ごみ処分場・ごみ処理施設問題 公開研究会」を開催 <愛知大学にて：参加者80名>  
 2009年11月 1日 高木基金だより No. 22 発行 <約2,600通>  
 2009年11月 6日 高木基金助成報告集 Vol. 6(2009) 発行 <1,200部>  
 2009年12月10日 助成募集(国内調査研究枠・研修奨励) 〆切  
 2010年 1月26日 選考委員会(国内枠)開催  
 2010年 3月 7日 第9回助成の公開プレゼンテーション開催 <渋谷区立勤労福祉会館にて：参加者70名>  
     同日の理事会で2009年度助成先を内定  
 2010年 3月25日 高木基金だより No. 23 発行 <約2,600通>  
 2010年 3月31日 助成募集(国内研修奨励) 〆切

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者	受益対象者の範囲及び人数	支出額	
(1) 市民の科学を目指す日本国内及びアジアの個人・グループの研究・研修への助成	国内の個人・グループへの調査研究助成	2009/4/1～2010/3/31	主に国内	(1)-(2) 共通で専従2名	主に国内の個人・グループ	NPO/グループ 7団体	市民科学をめざす個人・グループへの調査研究助成金(一般応募)	1,600,000円
	国内の個人への研修奨励	2009/4/1～2010/3/31	主に国内		主に国内の個人	個人 2名	市民科学をめざす個人への研修奨励金	1,060,000円
	アジアの個人・グループへの調査研究助成	2009/4/1～2010/3/31	主にアジア		アジアの個人・グループ	6団体	市民科学をめざすアジアの個人・グループへの調査研究助成金	2,000,000円
	募集告知、助成先選考、助成研究・研修の成果発表	2009/4/1～2010/3/31	国内		国内及びアジア	応募数 74件(個人・グループ)	助成関係費	2,658,646円
(2) 市民科学の理念及び研究成果の普及	支援者及び一般への研究成果の普及・活動状況等の広報としての「高木基金だより」の発行	No. 21 2009/ 6/15 No. 22 2009/11/ 1 No. 23 2010/ 3/25	国内		高木基金の支援者及び一般	各2,600名(発行部数)	広報活動費	1,153,196円
	助成先等の報告会・研究会及びセミナー等の開催	2009/5/9、2009/10/31	都内		一般	5/9 50人 10/31 80人	普及活動費	396,411円
(3) 市民科学を目指す実践的な活動への助成	国内の個人・グループへの調査研究助成	2009/4/1～2010/3/31	国内		主に国内の個人・グループ	NPO/グループ 7団体	市民科学をめざす個人・グループへの調査研究助成金(継続応募)	4,200,000円
	委託研究	2009/4/1～2010/3/31	主に国内		一般	(広く社会一般に研究成果が還元される)	委託研究費	70,000円
(4) 自然エネルギー利用および省エネルギーの研究および普及活動への助成	今年度は実施せず							

### (2) その他の事業

なし

## 2009年度（特定非営利活動に係る事業）収支計算書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 （単位：円）	
<b>I 収入の部</b>		
1 会費収入	4,432,000	
2 事業収入	0	
3 補助金等収入	0	
4 寄付金収入	15,156,647	
5 運用収入	197,168	
6 その他収入	175,082	
<b>当期収入合計</b>		<b>19,960,897</b>
<b>II 支出の部</b>		
<b>1 事業費</b>		
<b>(1) 市民の科学を目指す日本国内及びアジアの個人・グループの研究・研修への助成</b>		
助成金		
国内の個人・グループへの調査研究助成(一般応募)	1,600,000	
国内の個人への研修奨励	1,060,000	
アジアの個人・グループへの調査研究助成	2,000,000	
小計	4,660,000	
助成関係費		
公募関係費	98,232	
選考会費	734,769	
公開プレゼンテーション関係費	389,556	
成果報告会費	1,213,846	
アジア助成関係費	222,243	
小計	2,658,646	
<b>(2) 市民科学の理念及び研究成果の普及</b>		
広報・普及事業費		
広報活動費	1,153,196	
普及活動費	396,411	
小計	1,549,607	
<b>(3) 市民科学を目指す実践的な活動への助成</b>		
国内の個人・グループへの調査研究助成(継続応募)	4,200,000	
委託研究費	70,000	
小計	4,270,000	
事業費合計		<b>13,138,253</b>
<b>2 管理費</b>		
事務局人件費	4,689,709	
法定福利費	35,657	
消耗品費	33,792	
通信運搬費	178,371	
支払家賃	395,706	
印刷費	85,263	
旅費交通費	98,890	
外部委託費	0	
会議費	0	
支払手数料	159,667	
新聞図書費	59,800	
備品購入費	64,470	
租税公課	1,400	
雑費	0	
管理費合計		<b>5,802,725</b>
<b>当期支出合計</b>		<b>18,940,978</b>
<b>当期収支差額</b>		<b>1,019,919</b>

2009年度（特定非営利活動に係る事業）貸借対照表

2010年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目		金 額 (単位:円)	
<b>I 資産の部</b>			
1	流動資産	現金	162,123
		普通預金 三菱東京UFJ	3,548,750
		三菱東京UFJ (基金口)	14,523,933
		りそな銀行	46,783
	郵便振替	00140-6-603393	1,242,203
		00160-4-758972	0
	国債	利付国債(5年)第63回	20,000,000
	流動資産合計		39,523,792
2	固定資産	なし	0
	固定資産合計		0
	資産合計		39,523,792
<b>II 負債の部</b>			
1	流動負債	未払金	7,210,000
		第9回助成金 未払分	
		委託研究費 未払分	500,000
		基金だよりNO.23印刷費	47,344
		基金だよりNO.23発送費	208,499
		誤入金会費返金分	6,000
		カード支払未決済分	15,097
		3/5 公開プレゼン資料コピー代 他	
	預かり金	源泉所得税	16,010
		2010年1月~3月給与支払分	
		雇用保険料従業員負担分	17,090
		2009年4月~2010年3月給与支払分	
	流動負債合計		8,020,040
2	固定負債	なし	0
	固定負債合計		0
	負債合計		8,020,040
<b>III 正味財産の部</b>			
		前期正味財産	30,483,833
		当期正味財産増減額	1,019,919
	正味財産合計		31,503,752
正味財産及び負債の合計			39,523,792

## 2009年度（特定非営利活動に係る事業）財産目録

2010年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位：円)
<b>I 資産の部</b>	
1 流動資産	
資産の部	
現金	<b>162,123</b>
普通預金 三菱東京UFJ	<b>3,548,750</b>
三菱東京UFJ（基金口）	<b>14,523,933</b>
りそな銀行	<b>46,783</b>
郵便振替 00140-6-603393	<b>1,242,203</b>
00160-4-758972	<b>0</b>
国債 利付国債（5年）第63回	<b>20,000,000</b>
流動資産合計	<b>39,523,792</b>
2 固定資産 なし	
資産合計	<b>39,523,792</b>
<b>II 負債の部</b>	
1 流動負債 未払金	
第9回助成金 未払分	<b>7,210,000</b>
委託研究費 未払分	<b>500,000</b>
基金だよりNO.23印刷費	<b>47,344</b>
基金だよりNO.23発送費	<b>208,499</b>
誤入金会費返金分	<b>6,000</b>
カード支払未決済分	<b>15,097</b>
3/5 公開プレゼン資料コピー代 他	
預かり金 源泉所得税	<b>16,010</b>
2010年1月～3月給与支払分	
雇用保険料従業員負担分	<b>17,090</b>
2009年4月～2010年3月給与支払分	
2 固定負債 なし	
負債合計	<b>8,020,040</b>
<b>III 正味財産の部</b>	
正味財産	<b>31,503,752</b>
正味財産及び負債の合計	<b>39,523,792</b>

## 2009年度（その他の事業）収支計算書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
<b>I 収入の部</b>		
その他の事業収入	0	
当期収入合計		0
<b>II 支出の部</b>		
<b>1 事業費</b>		
事業費	0	
事業費合計		0
<b>2 管理費</b>		
管理費合計	0	
管理費合計		0
当期支出合計		0
当期収支差額		0

## 2009年度（その他の事業）財産目録

2010年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
<b>I 資産の部</b>		
資産	0	
資産合計		0
<b>II 負債の部</b>		
負債	0	
負債合計		0
<b>III 正味財産の部</b>		
正味財産		0
正味財産及び負債の合計		0

## 2009年度（その他の事業）貸借対照表

2010年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
<b>I 資産の部</b>		
資産	0	
資産合計		0
<b>II 負債の部</b>		
負債	0	
負債合計		0
<b>III 正味財産の部</b>		
前記繰越正味財産	0	
当期正味財産増減額	0	
正味財産		0
正味財産及び負債の合計		0

2010年 4月 12日

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金  
代表理事 河合 弘之 殿

## 会 計 監 査 報 告 書

当法人の2009年度（2009年4月1日から2010年3月31日）の会計について、  
財産目録、貸借対照表、収支計算書等を精査した結果、適正なものである  
ことを認めます。

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金  
監事 蝦名 順子

高木仁三郎市民科学基金 2009年度 助成金・委託研究費明細（兼 未払助成金明細）

金額単位：円

受付番号	テーマ	助成申込者名 または代表者名	グループ名	助成金額	2009年度末 未払助成金
<b>【国内の個人・グループへの調査研究助成（一般応募）】</b>				<b>小計</b>	<b>1,600,000</b>
91009	市民が行う松葉のダイオキシン調査	岡本 京子さん	松葉のダイオキシン調査 2010.3実行委員会	200,000	200,000
91014	安定型処分場に依存しない農業用塩ビフィルムの リサイクル等資源化活用システムの構築に関する研究	清野 宣昭さん	夕張のメロンと夕張川の 水を守る市民ネットワーク	200,000	200,000
91015	「もんじゅ」及び若狭の原子力施設からの放射能放出 調査	池島 美紀子さん	ストップ・ザ・もんじゅ	200,000	200,000
91016	原子力発電所の建設に伴う関係漁村地域の対応 と海の入会実態の研究 —漁協・漁業入会集団への現地聞き取り調査をととして	中島 満さん		300,000	300,000
91019	在沖米海兵隊のグアム移転がグアムと沖縄に与える 影響の研究	山口 響さん	ピープルズ・プラン研究 所	400,000	400,000
91030	原子力は温暖化対策にならない むしろ新規原子力は温暖化を悪化させる	アイリーン・美緒 子・スミスさん	グリーン・アクション	200,000	200,000
91033	汚泥堆肥化施設周辺の落下菌調査	野田 智子さん	三浦の自然と大村湾の 環境を守る会	100,000	100,000
<b>【国内の個人・グループへの調査研究助成（継続応募）】</b>				<b>小計</b>	<b>4,200,000</b>
96001	産業廃棄物中間処理施設周辺環境影響調査	前田 俊宣さん	埼玉西部・土と水と空気 を守る会	700,000	700,000
96002	日の出町ゴミ焼却灰のエコセメント化工場の環境 影響調査	濱田 光一さん	たまあじさいの会	600,000	600,000
96003	建築材料等のVOC汚染による健康影響の総合調査	森上 展安さん	化学物質による大気汚染 から健康を守る会（VOC 研）	400,000	400,000
96004	六ヶ所再処理工場からの放射能放出に関する 調査研究	古川 路明さん	六ヶ所再処理工場放射 能測定プロジェクト	800,000	800,000
96005	美浜1号炉の高経年化技術評価報告書の批判的 検討	伴 英幸さん	原発老朽化問題研究会	700,000	700,000
96006	草の根市民による沖縄のジュゴン保護活動の構築	鈴木 雅子さん	北限のジュゴンを見守 る会	300,000	300,000
96007	埋め立ての危機に瀕する上関原発予定地の生物 多様性の立証	高島 美登里さん	長島の自然を守る会	700,000	700,000
<b>【国内の個人への研修奨励】</b>				<b>小計</b>	<b>1,060,000</b>
82008	脱原子力の政治過程 —ドイツ・ゴアレーベンにおける最終処分場問題—	佐藤 温子さん		500,000	0
92002	米国南西部におけるウラン鉱山をめぐる環境正義運動	玉山 ともよさん		560,000	560,000
<b>【アジアの個人・グループへの調査研究助成】</b>				<b>小計</b>	<b>2,000,000</b>
93003	水の正義：スリランカのホットスポットにおける水質調査 【スリランカ】	ヘマンサ・ウィサナ ゲさん	センター・フォー・エンバ イロメンタル・ジャスティ ス（GEJ）	450,000	200,000
93004	紅沿河原発建設における研究プログラム（遼寧省大連 市）【中国】	程淑玲さん	大連環境資源センター （DERG）	350,000	150,000
93006	小規模鉱山開発コミュニティにおける水銀汚染の把握お よびベースラインデータの構築—水・土壌のサンプル調 査を通じて【フィリピン】	リチャード・グティ エレスさん	バン・トクシックス （Ban Toxics!）	300,000	150,000
93011	松花江支流沿いの環境・健康状況に関する参加型調査 や草の根教育を通じたコミュニティ研究【中国】	張亜東さん	緑色龍江 （Green Longjiang）	250,000	100,000
93019	イロイロ市カラフナンの廃棄物処分場における環境・健康 リスク調査【フィリピン】	ノーマン・デキーナ さん	イロイロ市貧困者の会 （KAISOG）	300,000	150,000
93026	日本とインドネシアの比較研究：原発の意思決定に参加 する市民の権利に関する調査【インドネシア】	ディアン・アブラハ ムさん	インドネシア反核市民連 合（MANUSIA）	350,000	100,000
<b>助成金合計</b>				<b>8,860,000</b>	<b>7,210,000</b>
<b>【委託研究費】</b>				<b>0</b>	<b>500,000</b>
【2006年度からの継続】「地震と原発」研究		山口 幸夫さん	原子力資料情報室	2006年度支出	500,000
<b>委託研究費合計</b>				<b>0</b>	<b>500,000</b>

## 1. 2009 年度事業報告および決算報告について

## (1) 国内枠助成

- ・第9回の助成募集・選考を行い、国内枠として調査研究助成 14 件 580 万円(昨年実績比 ▲50 万円)、研修奨励 2 件 106 万円(同+36 万円)の助成を決定した。(明細は p.8 ご参照)
- ・2008 年度より、調査研究助成については、継続的に応募・助成をしているグループ等に、助成先が固定するのを避け、新規の助成先を積極的に発掘するという観点から、過去に 2 回以上の助成実績がある応募者(継続応募)と、それ以外の応募者(一般応募)を区別して選考を行っているが、結果として継続応募の助成先は 7 件 420 万円、一般応募は 7 件 160 万円となり、一般応募の助成金額が総じて少額となった。

## 【第9回助成(国内枠)の募集・助成結果】

募集	国内向け調査研究助成 …… 2009 年 11 月 1 日～12 月 10 日 国内向け研修奨励 …… 3 回の募集期間を設定 (1)2009 年 9 月 1 日～9 月 30 日、(2)2009 年 11 月 1 日～12 月 10 日 (3)2010 年 3 月 1 日～3 月 31 日(□第3回の応募分は 2010 年度に選考)		
応募	応募件数	国内合計 45 件	応募総額 3,507 万円
	調査研究(一般応募)	35 件	2,570 万円
	調査研究(継続応募)	7 件	681 万円
	研修奨励	3 件	256 万円
	(□第3回の応募分 7 件は上記に含まず)		
選考	2010 年 1 月 26 日、選考委員会にて書類選考を実施。 3 月 7 日に、渋谷区立勤労福祉会館にて国内枠調査研究助成の公開プレゼンテーションを開催。その後の理事会で助成先を内定。		
助成決定		第9回助成	累 計
	国内向け調査研究助成	14 件 580 万円	110 件 6,200 万円
	国内向け研修奨励	2 件 106 万円	20 件 986 万円
	合計	16 件 686 万円	130 件 7,186 万円

- ・第7回助成先の助成期間が 2009 年 3 月で終了し、調査研究・研修成果のとりまとめを行った。
- ・第7回助成は、助成件数 22 件と多かったこともあり、成果発表会を 7 月 26 日(京都、キャンパスプラザ京都、参加者 40 名)と、9 月 27 日(東京、JICA 地球ひろば、同 75 名)の 2 回に分けて実施した。
- ・調査研究・研修の完了報告書・会計報告書は、成果発表会の当日資料として配付するとともに、概要をホームページに掲載した。また、助成の成果報告をまとめた「高木基金助成報告集 vol.6(2009)」を 11 月に発行し、会員・支援者等に送付するとともに、ホームページ等を通じて普及に努めた。

## (2) アジア枠助成

- ・第9回の助成について、昨年度に続き募集期間(8月中旬～9月末)を設け、国内外に広く募集の呼びかけを行った。
- ・募集期間内に 29 件の応募があり、選考委員による書類選考を経て、理事会で 6 件 200 万円の助成を決定した。

- ・ 応募件数は昨年度より 2 倍近く増加した。問題別では「重金属・廃棄物汚染」、「原子力発電」案件が増え、国別では例年同様のフィリピン、インドネシアに加えて、中国、ネパール、タイからの応募が増えた。
- ・ 第 8 回助成先について、現地訪問を行い、助成先やその調査研究について、基金だよりなどを通じて国内向けに発信した。また、助成先の Ban Toxics! が来日の際、成果発表会で「日本の水銀輸出の禁止を訴える緊急アピール」を実施した。
- ・ 高木基金ウェブサイトの英語ページの充実を図った。

【第 9 回助成(アジア枠)の募集・助成結果】

募集	アジア向け調査研究助成・研修奨励 … 2009 年 8 月 15 日～9 月 30 日		
応募	応募件数	29 件	応募総額 2,507 万円
	内 調査研究	27 件	2,303 万円
	研修奨励	2 件	204 万円
選考	2009 年 11 月 16 日～12 月 1 日に選考委員による書類選考を実施。 2009 年 12 月 21 日の理事会で助成先 6 件を内定。		
助成決定		第 9 回助成	累 計
	アジア向け調査研究助成	6 件 200 万円	22 件 1,025 万円
	アジア向け研修奨励	なし	2 件 115 万円
	合計	6 件 200 万円	24 件 1,140 万円

(3) 委託研究

・「地震と原発」研究

この委託研究は、2006 年 11 月からの取り組みで、2008 年 10 月までの 2 年間で予定していたが、その後の新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原発の問題等が大きな焦点となり、下記の「柏崎刈羽・科学者の会」への委託研究と並行して実施することとなった。引き続き、柏崎刈羽原発の問題が緊迫した状況にあること、実際には、二つの研究グループのメンバーの多くが重複していることもあり、2009 年度は、「柏崎刈羽・科学者の会」への委託研究を主体とし、「地震と原発」研究については、未払いの委託研究費の支出も行わなかったが、原子力関係施設の耐震安全性というテーマ自体は極めて重要であり、引き続き、高木基金の委託研究として位置づけている。

・「柏崎刈羽・科学者の会」

新潟県中越沖地震で被災し、全 7 基が稼働を停止した柏崎刈羽原発については、すでに 7 号機、6 号機の運転が再開された。引き続き、他の号機の耐震安全性、設備健全性等について、新潟県の技術委員会（およびその元に設置された小委員会）での検証が行われており、「柏崎刈羽・科学者の会」では、この議論に関わる論点の分析、委員への問題提起、情報提供等に力を注いできた。

2009 年度は、リーフレット No.4、5 を発行し、関係する委員会や自治体関係者、地元住民等への配布を行うなど、東京電力の運転再開の動きに対し、科学的・技術的な立場から、精力的に批判的検証を行っている。

高木基金としては、2009 年度の予算に、この研究への寄付募集と、委託研究費の追加支出を計上していたが、「柏崎刈羽・科学者の会」自体が、独自に大口の寄付を確保し、調査研究を継続していることもあり、09 年度の支援呼びかけ、委託研究費の追加支出とも実施せず、リーフレット発行の負担金のみを支出に計上した。

#### (4) 助成先の交流の促進、研究者ネットワークの構築

- ・2008年7月に実施した「ごみ処分場・ごみ処理施設問題 公開研究会」につづき、昨年10月31日に、第2回の公開研究会を愛知大学で開催した。(参加者80名)  
高木基金の助成先と、東海地方でごみ問題、リサイクル問題に関わる複数のグループの事例報告を行い、活発な意見交換が行われた。高木基金としても、あらたな支援者、理解者とのつながりをつくる機会となった。
- ・高木基金として、各地の様々な課題のニーズに応えられるような研究者ネットワークを強化したいという構想は、この間、たびたび話題になっており、まだ、具体的な方法等は見出せていないが、ネットワークの基盤としては、前進してきている。

#### (5) 選考委員の一般公募

- ・2007年度から選考委員の一般公募を行っている。2009年度は、3名の応募者の中から、理事会で選考の結果、吉田健一氏に選考委員を委嘱することとした。

#### (6) 会員・組織基盤拡大の取り組み

- ・2009年度の会員・支援者数の状況は下記の通り。  
支援者数では、20名の減少となったが、年度末の継続依頼に対して、4月早々に継続して下さった方もおり、実質的には前年度と同等と言える。依然として、経済環境が厳しい中で、多くの方から、着実な支援を頂いていることは事実だが、理事会・事務局としては、さらに積極的な支援者の拡大に努めていきたい。

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	前年比	備考
正会員	15人	18人	18人	18人	19人	+1人	
維持会員	264人	258人	268人	256人	241人	▲15人	
賛助会員	333人	305人	314人	293人	275人	▲18人	
会員計	608人	580人	600人	563人	535人	▲28人 (▲5.0%)	*1
寄付者	246人	120人	120人	130人	138人	+10人	
支援者総数	854人	689人	720人	693人	673人	▲20人 (▲2.9%)	
支援者の内訳							*2
新規	64人	33人	47人	40人	57人	+17人	
継続	557人	578人	517人	521人	478人	▲43人	
復活	233人	77人	156人	132人	138人	+6人	

\*1 一部重複があるため合計が一致しない \*2 内訳の「継続」は前年度も支援のあった方、「復活」は過去に支援の実績があり、前年度はなかった方。

- ・ニュースレター「高木基金だより」等の発行(約2,600部)については、2008年度同様、年4回(基金だより3回+公開プレゼンの案内)とし、それにあわせて支援の呼びかけを行った。

## (7) 2009 年度決算について

- ・ 2009 年度の収支は、会費・寄付が予算を達成した一方、助成金、委託研究費が予算を下回った結果、最終的に 102 万円の黒字となった。(別紙決算概況 (p.1)をご参照)
- ・ 2009 年度の収入は、大口寄付が複数あり、また、支援者数が若干減少したものの、一般の会費・寄付も着実に寄せられたことで、収入予算をほぼ達成することができた。
- ・ 支出では、助成金が予算比▲113 万円、委託研究費が同▲93 万円となり、これが全体の支出減少に寄与した。成果発表会を東京と京都で 2 回開催し、ゴミ処分場問題の公開研究会を名古屋で開催したことなどから、助成関係費が予算比+12 万円となった。また、管理費が予算比+45 万円となった要因は、主に人件費だが、これは予算に無理があったといえる。

2006-09 年度の会費・寄付の内訳 (市民研究サポートを含む)

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	<b>2009 年度</b>	前年比
支援合計	22,107 千円	18,589 千円	15,890 千円	<b>19,589 千円</b>	+3,699 千円
内 一般の会費・寄付	6,607 千円	7,589 千円	7,284 千円	<b>7,589 千円</b>	+305 千円
[1 人あたり]	[9,589 円]	[10,540 円]	[10,512 円]	<b>[11,276 円]</b>	[+764 円]
内 大口の寄付	15,500 千円	11,000 千円	8,606 千円	<b>12,000 千円</b>	+3,394 千円

ここでは、1 件で 50 万円以上の寄付を大口の寄付、それ以外を一般の会費・寄付として集計している。

## 2. 2010 年度事業計画及び収支予算について

### (1) 第 10 回助成(国内枠およびアジア枠)

#### 国内枠

- ・今年度の国内枠助成については、基本的に 2009 年度と同様のかたちで取り組みたい。
- ・ただし、調査研究助成の一般応募と、研修奨励については、良い案件を助成できるように、事務局として、候補者の発掘や事前相談による応募内容の充実に努める。
- ・例年同様、第 9 回助成の成果発表会の開催、助成報告集の発行を行う。

#### アジア枠

- ・今年度のアジア枠助成については、基本的に 2009 年度と同様のかたちで取り組みたい。
- ・第 10 回助成は、前年度と同時期（8 月中旬～9 月末）に募集期間を設けて、国内外に広く応募を呼びかける。
- ・第 9 回助成先の現地訪問を行い、各調査研究およびアジアにおける市民科学の現状把握ならびに支援・連携体制の構築を図る。
- ・アジアの助成先と国内の市民団体・研究者の直接的な連携をバックアップし、調査研究の効果を高め、助成成果の国内還元を目指す。
- ・アジアにおける市民科学のニーズ把握や他の業務に時間を費やし、先延ばしとなっている欧米の助成財団へのファンドレイズを目指す。
- ・高木基金ウェブサイトや広報物を通じて、助成先の成果を発信する。

助 成 分 類	2010 年度予算	備 考
国内枠 調査研究助成 (一般応募および継続応募)	650 万円	前年度予算と同額
国内枠 研修奨励	150 万円	
アジア枠 調査研究助成・研修奨励	200 万円	
合 計	1,000 万円	

### (2) 委託研究

- ・継続中の「柏崎刈羽・科学者の会」については、2008 年度からの市民研究サポートの繰り越しを含め、委託研究費を追加支出する方向で引き続き支援していきたい。  
(市民研究サポート 50 万円、委託研究費 100 万円を予算に計上。)
- ・同じく「地震と原発」研究については、一部委託研究費の未払い分もあり、研究の進展にあわせて、引き続きフォローしていきたい。

### (3) 高木仁三郎没後 10 年にかかわる取り組み

- ・今年、2000 年 10 月に高木仁三郎が亡くなり、12 月に日比谷公会堂での「偲ぶ会」で高木基金が発足してから、10 年の節目の年である。2010 年 10 月 9 日（土）には、主婦会館にて、原子力資料情報室、高木学校とともに「高木仁三郎没後 10 年のつどい」を開催すべく、準備を進めている。高木基金としても、これまでの活動のあり方を見直し、今後の中長期的な活動の方向性を検討する取り組みを行いたい。  
具体的には、助成先、支援者、役員経験者などへのインタビューや、意見の募集等を基本とし、その結果を、リーフレットやウェブサイト、ビデオなどにまとめる方向で検討していく。

#### (4) 選考委員の一般公募

- ・2007年度から実施している選考委員の一般公募は、選考および組織運営の活性化に寄与しており、今年度も従来同様に選考委員の一般公募(1名)を実施したい。

#### (5) 会員・組織基盤の拡大とそのための広報の強化

- ・従来からの会員・支援者への継続支援および、口座振替の利用を呼びかける。新規支援者の開拓については、今年度が、設立から10年目という節目であることもふまえ、これまで以上に、積極的な働きかけを行いたい。  
このために、高木基金の案内パンフレットの新規作成、ウェブを活用した支援者拡大などにも取り組んでいきたい。
- ・この間の収支動向を見ても、一般の方からの支援を着実に集めつつ、大口の支援を獲得できる状況になってきたが、これを継続、拡大していけるよう、理事会・事務局として、全力で取り組んでいきたい。

#### (6) 2010年度予算

- ・今年度の予算は下表の通りとし、アジア枠助成や、没後10年の取り組みなどの支出を新たに予算に織り込んだ上で、単年度収支均衡を目指す。

(単位:千円)

		2008年度 実績	2009年度 実績	2010年度 予算	前年実績 対比	備考
収 入	会費収入	4,580	4,432	5,500	+1,068	
	寄付収入	10,935	15,101	15,000	▲101	
	市民研究サポート	375	55	500	+455	*1
	支援小計	15,890	19,589	21,000	+1,411	
	内 一般の会費・寄付	7,285	7,589	8,000	+411	
	内 大口寄付	8,606	12,000	13,000	+1,000	
	補助金など	0	0	500	+500	*2
	利息・雑収入など	471	372	400	+28	
	収入合計	16,362	19,961	21,900	+1,939	
支 出	助成金	8,700	8,860	10,000	+1,140	
	委託研究費	60	70	1,000	+930	*1
	助成関係費(国内)	2,198	2,436	2,300	▲136	
	助成関係費(アジア)		222	600	+378	*3
	広報・普及事業費	1,708	1,550	2,000	+450	*4
	管理費	5,130	5,803	6,000	+197	
	内 人件費	3,788	4,652	4,800	+148	
	支出合計	17,796	18,941	21,900	+2,959	
収支差額		▲1,434	+1,020	±0	▲1,020	
年度末正味財産(基金残高)		30,484	31,504	31,504	±0	

\*1 市民研究サポートの状況に合わせて、委託研究費の増額を検討する。

\*2 アジア枠について、海外の財団などからの補助金獲得を目指す。

\*3 アジア枠の助成先訪問、補助金獲得のための海外出張費50万円およびアジア枠助成先と国内団体・研究者の連携費10万円を含む。

\*4 高木仁三郎没後10年のつどいの実施費用、リーフレットなどの制作費用50万円を含む。